小学校問題行動等防止プログラムに関する実践事例

高松市立木太北部小学校

関連項目：教育活動プラン③、④

道徳の時間の授業改善を中心に、特別活動やふれあい活動の充実を図る

目的

人とつながる喜びを味わう中で、人とのかかわり方を身につけ、自分を見つめ、よりよい自分の生き方を考える子どもを育成するために、道徳の時間の授業改善を中心に、特別活動やふれあい活動の充実を図る。

内容

●「道徳の時間」の授業改善ーねらいの明確化ー

児童の実態や地域の環境、保護者の願い、学校課題、教師の願いをふまえ、学習指導要領の価値項目から考え、一つの主題で何をねらいとするのかをはっきりとさせて、道徳の授業を行った。ねらいがはっきりしないままに、読み物資料を読ませるのではなく、読み物資料から押さえたい価値の分析をしっかりと行い、児童の実態や保護者の願いと関連づけてねらいを設定することで、1 時間 1 時間が充実した授業になっている。

●「道徳の時間」の授業改善ー指導方法の工夫ー

1 時間の道徳の授業を充実したものにするために、発問構成や資料提示の仕方、言語活動の取り入れ方、板書をどのように構造化するか等の工夫を行った。自分自身を振り返り、自分の生活につないで考え、学んだ道徳的価値を自分なりに自分の生活に生かすことができるように指導方法を工夫することで、主体的に自分の生活をつくることにつながっている。

●「道徳の時間」の授業改善ー道徳ノートの充実ー

本校では、全学年が道徳ノートを授業の中で活用し、その充実を図っている。ノートには学習の目当て、自分の考え、友達の考え、授業を通して自分が見つけた道徳的な心、生活にどのように生かしていくかを学年の発達段階に応じて, 自分のことばで書くようにしている。学習したことをノートに書くことを積み重ねることで、自分自身を見つめ自分の生活を振り返ることができるようになっている。また、道徳の時間だけの学習にならずに、普段の生活への実践化も図れ、低学年から高学年と継続していくことで、自分の生き方を考えることにつながっている。

さらに、家庭との連携を図るための媒介としても、道徳ノートは大きな役割を果たしている。道徳ノートに書かれた学習の足跡を家庭に持ち帰り、メッセージを家庭からもらうことで、児童はより一層、学習に対しての意欲をもつことができ、また保護者への啓発にもつながった。

●「道徳の時間」の授業改善ー体験活動とつないでー

児童会活動等特別活動の充実を図るなかで、人とつながる喜びを感じさせるともに、道徳と関連づけた体験活動が推進できるように工夫している。体験から問題を見つけ、道徳で学んだ価値を体験に生かすことができるように考えることで, 生きてはたらく道徳学習になるような工夫を行った。

●　異学年集団のふれあい活動の充実

本校では、1 年から 6 年で 15 人程度のたてわり班を作り活動するふれあい活動を行っている。毎週火曜日に行われる朝の活動時のふれあい活動では、上級生が考えたゲームや長縄を行い、異学年での交流が図れるようにした。また、ふれあい遠足や運動会のふれあい種目など学校行事でもふれあい班での活動を行っている。活動するなかで、自分と違う他人の意見を聞いたり、話し合ったりと意見を調整していく過程で、集団の中で折り合いをつけたり、他人とうまくかかわったりする力が育っている。そして、上学年は下級生の面倒を見たり活動の中心となって行動したりすることで、リーダー性が育ち、また下級生から頼られ必要とされることで、自己存在感を感じることができている。

成果

上記のような取り組みを行うことで、人とかかわりながら活動することの喜びを感じながら、他人とうまく調整する力が育っている。児童のアンケートでもふれあい活動を好きと答える児童の割合は多い。日常の生活でも上級生が下級生にやさしく接したり、また、進んで朝のボランティア活動に取り組んだりする姿も多く見られる。